大久保駐屯地創立６５周年及び第４施設団創隊６１周年記念行事

新隊員の力強い行進

駐屯地司令式辞

大久保駐屯地（駐屯地司令 坂元秀明 陸将補）は、令和4年5月29日（日）、真夏を思わせる五月晴れのもと、大久保駐屯地創立65周年及び第４施設団創隊61周年記念行事を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、３年振りとなる一般開放により、約六千名の方々にご来場いただきました。

坂元司令は記念式典の式辞において、３年振りの一般開放により記念行事を挙行できる喜び、地域の方々のご支援・ご協力への謝意、伝統を築き上げてきた諸先輩方への感謝、最近の国内外情勢を踏まえた隊員に対する要望と駐屯地としての決意を述べ、参列する隊員は、多くのご来賓の方々を前に、自衛官としての自覚と決意を新たにしました。

その後、観閲行進、訓練展示、体験搭乗、装備品展示、音楽演奏等により、自衛隊を身近に感じていただくとともに、ご来場者からは、「戦車の迫力が凄かった。」「自衛官がカッコよかった。」などの多くの意見をいただき、隊員達の大きな励みとなりました。

今年は３年振りに協力会や地域の方々と共に、大久保駐屯地創立65周年及び第４施設団創隊61周年記念行事を催すことができました。

来年も皆様方にご満足いただけるように充実した記念行事を開催する所存です。

訓練展示

観閲行進

装備品展示

体験搭乗

音楽演奏

三施太鼓演奏

中部方面総監初度視察

第４施設団及び大久保駐屯地業務隊の初度視察のため、令和４年４月６日（水）、中部方面総監の堀井泰蔵 陸将が来訪され、栄誉礼、幹部挨拶、状況報告を受け、部隊の現状を把握した後、大久保駐屯地の各施設を視察されました。

生活隊舎では、隊員に「困ったことはないか。」「営内生活は快適か。」等、気さくに声をかけていただき、勤務状況や生活環境などの現状を視察されました。

その後、全隊員に対する訓示では、統率方針の「部隊を強く、隊員を幸せに」、要望事項である「安全・健全」を掲げ、激励のお言葉をいただきました。

地点指示

栄誉礼

記念撮影

生活隊舎視察

令和４年度第３師団長感謝状受賞者紹介

感謝状受賞

記念撮影

令和4年5月15日（日）、大久保駐屯地桃友会副会長是永英明氏は、第3師団長から「我が国の防衛と自衛隊の活動に対する深い理解のもと防衛基盤の育成に尽力するとともに、地域の方々の自衛隊に対する理解促進に努め、部隊の充実発展と隊員の士気高揚に貢献した功績」により感謝状を受賞しました。

是永副会長からは、「推薦して頂いた皆様に感謝したい」と、受賞した喜びの気持ちを述べられ、感謝状贈呈式は終了しました。

令和4年度大久保駐屯地司令感謝状受賞者紹介

大久保駐屯地司令感謝状受賞者			
大久保自衛隊協力会	青年部	副部長	村田　弘一
	久御山協力会	会　員	西村　　好
	巨椋協力会	幹　事	福山　善泰
	八幡協力会	理　事	森地　　武
	宇治田原協力会	副会長	奥田　光治
	小倉協力会	幹　部	森津　正臣
陽融会		会計監査	玉利　千穂
大久保駐屯地桃友会		会　員	畠中　又雄
４５会		関東ブロック長	西本　正洋
くりくま会		会　員	坂本　捷二
さきがけ会		会　員	久保　周三
			筒井　博之
丸四会		会　長	山本　克巳

駐屯地司令謝辞

記念撮影

やましろ

発行：大久保自衛隊協力会
陽融会
大久保駐屯地桃友会
４５会
編集：第４施設団本部
第１科広報班
印刷：進晃堂印刷

駐屯地司令要望事項

即応と信頼

紙　面　紹　介

１面
・大久保駐屯地創立６５周年及び第４施設団創隊６１周年記念行事
・中部方面総監初度視察
・令和４年度大久保駐屯司令感謝状受賞者紹介
・令和４年度第３師団長感謝状受賞者紹介

２面・３面
・各部隊訓練等記事

４　面
・部隊長随筆
・最先任の一言
・第１次団訓練検閲
・定年退官者紹介
・令和４年度防衛モニター原田康平氏就任
・編集後記

大久保駐屯地広報紙
「やましろ」
１四半期号　No１７

各部隊訓練等記事

身体測定

受付の状況

歯科検診

血圧測定

大久保駐屯地業務隊

大久保駐屯地業務隊は、駐屯地所在隊員の健康の維持・増進のため、日々、各種サービスの提供に努めています。

今回は、衛生科より、先々月実施した定期健康診断の結果を踏まえた考察について紹介します。

今回の定期健康診断（5月末時点）の受検者の総合判定の割合は以下の通りでした。

A（健康）約７割
Ba（要医療・虫歯を含む）約２割
Bb（要経過観察）約１割

特筆するべき点として、C（要軽業）がいなくなったことが挙げられます。

要因として、「前回の定期健康診断及び12月の生活習慣病検診に際し、再検査や要受診の指示に対して早期かつ適切に対処できている。運動習慣・食事の考慮など、健康的な生活が継続できている。」といった部隊指導の成果と隊員各人の努力が考えられます。

健康管理は、災害派遣等の迅速な出動準備に直結するほか、個人の将来の生活にも関わります。

今後も健康の維持・増進を目指し、継続的な健康管理に万全を尽くします。

練成訓練（破壊筒を用いた爆破）

日本原演習場春季整備（砕石の状況）

一般陸曹候補生（前期）課程（10ｋｍ行進）

一般陸曹候補生（前期）課程（射撃）

第７施設群

第７施設群は、４月上旬に13旅団が担任する日本原演習場春季整備に参加しました。整備部隊として、採石場の開設・運営、既設道の整備、伐採木の積載・運搬支援を実施するとともに、整備隊本部内における施設調整所の開設、技術指導部として他職種の参加隊員に対する施設技術の指導を通じ、方面隊全体の施設力の向上、訓練最盛期に先立つ道場の整備に貢献しました。

５月中旬には日本原演習場及び長池演習場において、年度当初の群本部、各中隊計画の練成訓練を実施しました。

各種施設作業を通じて現在の練度をしっかりと把握し、検閲に向けた練成目標の確立を狙いとして、各隊員が状況下の中でそれぞれの任務を達成すべく昼夜汗を流して十二分な成果を得ることができました。

また、群は、４年ぶりに一般陸曹候補生（前期）課程を担任し、約１００名の若人が自衛官として規則正しい生活を過ごし、６月28日に修了式を迎え、北は北海道、南は長崎まで全国の駐屯地へ旅立ちました。

一般陸曹候補生は今後、それぞれの任地で職種の専門知識及び技術を学びます。

車両の偽装

整備所天幕の構築

配　食

対空試射

第１０４施設直接支援大隊

第１０４施設直接支援大隊は、令和４年４月下旬、久居演習場において令和４年度第１回大隊訓練を実施しました。

今回の訓練は、整備隊訓練検閲受閲に向けた完成期としての訓練であり、自衛警戒を主に各級指揮官の指揮能力の向上及び部隊の基本的行動、隊員の基礎動作について練度の向上を目的とし、野外における一連の状況下の訓練を実施しました。

本訓練には、経験の浅い若年隊員も参加しており、慣れない作業や動作に苦戦しながら各級指揮官の指揮の下、任務達成に邁進しました。

任務達成が若年隊員の自信につながり、更なる活躍を期待するとともに、隊員一人一人が真剣に訓練に臨み、日頃の練成成果を発揮して、異状なく訓練を終了しました。

今年度、第４施設団との協同訓練で大隊長訓練検閲を受閲する予定であり、これを目標とし、本訓練で明確になった是正事項を改善・処置して、何時如何なる状況下においても、第４施設団及び団直轄部隊を支援し、信頼関係を深めて被支援部隊の任務完遂に貢献できるよう隊員一丸となり前進して行きます。

戦車射場のフラット化

伐採木の処理

標的設置位置の新設

砕石の運搬・卸下

第３施設大隊

第３施設大隊は、令和４年４月、第３師団が担任する令和４年度方面隊統制演習場春季整備に参加しました。

第３施設大隊は、演習場内の主要幹線道路の整備をはじめ、戦車射場における各種施設の構築、伐採木の処理、特科射撃陣地の復旧整備等を担任しました。

特に、昨年度から引き続いて実施した戦車射場のフラット化整備では、第３０７ダンプ車両中隊と連携した砕石等の運搬及び敷均しを実施しました。

また、令和４年７月に実施された方面戦車射撃競技会のため、射撃用の標的設置場所を新設しました。

これらの整備に際し、各地域の作業指揮官が降雨の状況にあっても工事管理を適切に行い、保有する機械力を最大限に発揮して、施設大隊一丸となり、与えられた任務を完遂することができました。

今後も、年間を通じた各種工事を通じて、施設技術の練度向上及び施設機械操作要員の育成を図って参ります。

第３０７ダンプ車両中隊

ダンプによる土砂の敷き均し

長距離車両操縦訓練

　第３０７ダンプ車両中隊は、令和４年５月上旬からの３日間、長距離車両操縦訓練を実施しました。
　本訓練では、主に運転免許新規取得隊員と、若年隊員が操縦手を務め、車長の先輩隊員からの指導・助言の下、初日は大久保駐屯地近傍の公道及び駐屯地・演習場を経由し、２日目は第２小隊が海上自衛隊舞鶴地方総監部が所在する舞鶴の地を目指して前進し、滅多に見ない護衛艦や船艇に感嘆の声が上がり、緊張がほぐれる面もありました。
　中隊は本訓練で走行距離のべ約１，４００ｋｍを走破し、一件の事故もなく訓練を終えました。
　本訓練で培った経験や課題を直ちに克服し、より一層の安全確実な車両運行が行えるよう中隊の進化に余念はありません。
　また、中隊野営訓練では団訓練検閲受閲前の最後の総合的な訓練の場として、出動準備から部隊展開、施設支援から各種対処行動までの一連の行動を演練し、組織力を整えました。

第１０２施設器材隊

パネル橋ＭＧＢの構築

断郊走記録会

　第１０２施設器材隊は、令和４年４月下旬及び５月上旬に隊断郊走記録会を実施しました。
　前年度実施された団戦技競技会において、優勝を逃したことから、令和４年度に実施される団戦技競技会に向けて、毎月１回、隊で計画する記録会を実施して、器材隊一丸となって優勝を目指し、練度向上に努めています。
　また、令和４年５月中旬から約１週間、日本原演習場において、団訓練検閲に向けた総合訓練の位置付けとして、隊野営訓練を実施しました。
　本部付隊は指揮所の開設及び運営、架橋中隊はパネル橋ＭＧＢの構築（パネル橋小隊検閲）、特殊器材中隊は建築資材（高所作業用足場セット）の構築、他部隊への器材支援及び自動車教習所における工事見積を実施しました。
　新型コロナ禍での実施となりましたが、参加者全員が記録会及び任務に真摯に取り組むとともに、感染症対策に留意しつつ、体調管理及び安全管理を徹底し、無事に訓練を終え、所望の成果を得ました。

第４施設団本部付隊

野外炊事

指揮所開設

　第４施設団本部付隊は、令和４年５月中旬から約１週間、大久保駐屯地、和歌山駐屯地及びあいば野基本射場において、令和４年度団統制訓練を総合訓練の場として移管業務支援、車両行進、指揮所開設、野外炊事、弾倉交換射撃等について演練しました。
　隊本部班に非常呼集を発令し、全隊員の登庁後、全般状況説明、作戦準備命令の下達後、速やかに作戦準備を開始しました。
　和歌山駐屯地移管業務支援においては、予備経路を掌握しつつ行進規律を維持して整斉と和歌山駐屯地へ移動し、移管業務を支援しました。
　大久保駐屯地体育館を伊丹駐屯地中部方面総監部本部庁舎内会議室と想定し、会議室と同規格による施設調整所を開設、その際、団本部及び団本部付隊内の認識の統一を図りつつ、内部配置を検証するとともに、開設要領を演練しました。
　指揮所開設後は、野外炊事車による野外炊事所の開設及び運営を実施し、団本部及び付隊の隊員に対して給食を実施するとともに、隊本部新配置隊員に対し実体験を通じて炊事能力の向上に努めました。

第３９７会計隊

射撃後の廃弾回収

射撃検定（伏撃ち）

　第３９７会計隊では、令和４年５月下旬に長池演習場において令和４年度第１回小火器射撃検定を実施しました。
　検定日の約１週間前から射撃姿勢や動作の確認・研究を重ね、隊員それぞれが目標を持って検定に臨みました。
　当日は強い陽射しの下で気温が30度まで上昇し、普段屋内でのデスクワークが多い隊員達にとっては厳しい条件となりましたが、全員がしっかりと集中力を持って射撃に臨み、大きな事故もなく無事に検定を終了することができました。
　練成の成果を発揮し、満足のいく結果だった隊員がいる一方、不甲斐ない結果に落ち込む隊員もいましたが、それぞれが新たな自分の目標を見つけるいい機会となりました。
　年間を通じて多忙な恒常業務を抱える会計隊では、他の職種に比べると訓練機会は決して多くありませんが、少ない機会を積極的に活用するとともに、成果を着実に累積し、引き続き自衛官として、また部隊として必要な能力の維持・向上に努めて参ります。

第３１８基地通信中隊大久保派遣隊

電話機の点検・接続

初度視察（記念撮影）

　第３１８基地通信中隊大久保派遣隊は、第１０４基地システム通信大隊長の初度視察を受けました。
　派遣隊の状況報告、巡視による現状の把握、派遣隊の任務遂行能力を確認して頂きました。
　また、中部方面システム通信群で実施された群集中訓練に参加し、ＶＰＮによるシステム構成や新器材を使用した直通回線構成をはじめ、個人によるＬＡＮケーブル作成からシステム通信機器、電話機等を使用したシステム通信訓練を実施しました。
　また、自衛官としての必要な銃の取扱いについても演練し、自衛官としての資質、通信科隊員としての能力向上を図ることができました。
　派遣隊は、基地システム通信基盤がいかなる状況でも当たり前に使用できる通信環境を維持し、駐屯地所在部隊のニーズに適切に対応し、訓練から恒常業務における使用部隊、使用者の皆様への影響を極限にするため部隊の基本的行動、隊員の基礎動作を演練し精進して参ります。

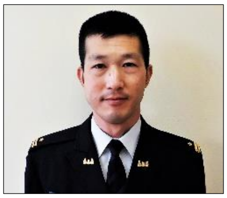
第３後方支援連隊
第１整備大隊施設整備隊

天幕の偽装

器資材の卸下

　施設整備隊は、あいば野演習場において５月中旬から令和４年度第１回連隊集中野営訓練に参加しました。
　隊員は施設整備隊長の要望事項である積極支援、基本基礎の徹底を意識して訓練に臨みました。
　本訓練では演習場に前進して速やかに車両の偽装等をして展開地に進入・安全化を図った後、師団の施設器材の故障を整備するための師団施設整備所を開設するとともに、敵の航空機等から防護するための各種掩体を構築し、支援態勢を完了させました。
　また、被支援部隊が師団施設整備所に容易に進入できるよう誘導の看板を設置する等、暑くて疲労の蓄積する中、隊員一丸となって任務達成に向けて努力し練度を向上させました。
　次回の６月の訓練では今回の訓練以上に創意を凝らし、７月に予定される検閲受閲に臨みます。

部隊長随筆



第１０４施設直接支援大隊長
３等陸佐　児嶋　伸久

「協同訓練」

第１０４施設直接支援大隊に対して格別なご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

令和４年３月14日付で第10代大隊長を拝命いたしました児嶋３佐です。

私が入隊した20年前は、施設科部隊の整備小隊が、後方支援部隊隷下へ体制移行の真っ只中でした。

私が初級幹部の頃、ＤＳ部隊等の訓練は、被支援部隊との協同訓練がまだ浸透しておらず、被支援部隊が訓練を実施する場合、ＤＳはあくまでも状況外で同行支援し、ＤＳの訓練は、被支援部隊を設想として、整備部隊が独自で実施するのが一般的でした。

たまに協同訓練に挑戦しても、集結地内でＤＳが邪魔者扱いされることも少なくありませんでした。

これが今では協同訓練が定着し、お互いを尊重しながら訓練できる時代になりました。

私は大隊長上番間、協同訓練を一層充実させ、第４施設団と"一蓮托生"の精神の下、いかなる状況でも支援任務を完遂できる精強な大隊を育成する所存です。

今後とも、第１０４施設直接支援大隊をよろしくお願いいたします。

最先任の一言

第３９７会計隊
先任上級曹長
准陸尉　井上　淳子

「コミュニケーション」

コミュニケーションは、部隊の団結を高めるために不可欠なものです。

コミュニケーションをとり、チームのメンバーの性格や得意技などを互いに知り合っていれば、互いに信頼感や安心感、時にはモチベーションを喚起し合え、団結力が生まれ強いチームとなり勝つことができるでしょう。

これは、部隊でも言えることだと考えます。部隊はチームであり、任務遂行（勝つ事）は、チームプレイです。

では、どのようにしてコミュニケーションをとっていけばよいのでしょうか。最近では、ネットコンテンツの普及で他人と接することが少なくなったことや、絵文字やスタンプを利用することにより、言葉での表現能力が低下した隊員が入隊してきているというのが現状であり、コミュニケーションがとりにくい状態だと考えます。

大事なことは、「だから、最近の隊員は・・・」などと若い隊員を呆れた目で見るのではなく、違いを受け入れ尊重し、相手が話す事に耳を傾けそして、自分の考えを分かり易く伝えることだと思います。

最後に、私自身もこのようなコミュニケーション能力を高め、第３９７会計隊の先任上級曹長として、精強な部隊にしていくため日々尽力していきたいと思っております。

第１次団訓練検閲及び第１０４施設直接支援大隊長訓練検閲

令和４年６月上旬から約２週間、第１０２施設器材隊及び第３０７ダンプ車両中隊は訓練検閲を受閲しました。訓練検閲間、全隊員が一丸となり、三重県桑名市の長良川・揖斐川での渡河、アスファルト舗装や建物の補修、特大型ダンプによる砕石の運搬等、持ち前の技術力を発揮して様々な任務を完遂しました。

また、同時期に第１０４施設直接支援大隊整備隊も大隊長訓練検閲を受閲し、運行前点検や各地域への同行支援等、多正面にわたる任務を完遂しました。

今後も体調管理に留意しつつ、各種訓練に励んで更なる練度の向上に努めていきます。

重門橋による大型車両の運航

砕石の卸下

建物の補修

アスファルト舗装

トランスミッションの故障探求

発電機の始動不良故障整備

令和４年度防衛モニター 原田康平氏就任

令和４年４月３日（日）、令和４年度防衛モニター委嘱式が行われ、駐屯地司令から防衛モニターに就任された原田康平氏に防衛事務次官からの委嘱状が伝達されました。

原田氏から「防衛モニターとして自衛隊、駐屯地に協力していきたい。」「身近な人にも自衛隊を広めていきたい。」等のお言葉をいただき、防衛モニターとしてのご活躍を期待しています。

委嘱状贈呈

記念撮影

定年退官者紹介

第１０２施設器材隊 本部付隊	第３９７会計隊	第１０４施設直接支援大隊 第２直接支援中隊
陸曹長　成田　誠	３等陸尉　置田　広司	陸曹長　藤澤　秀史
退官　令和４年５月８日	退官　令和４年５月８日	退官　令和４年４月２４日

第１０４施設直接支援大隊 整備隊	第４施設団本部付隊	第１０２施設器材隊 本部付隊
陸曹長　古田　真司	３等陸尉　杉尾　暢美	陸曹長　松川　幸彦
退官　令和４年６月１８日	退官　令和４年６月１４日	退官　令和４年６月１４日

大久保駐屯地
Twitter
ＱＲコード
↓

編集後記

大久保駐屯地広報紙「やましろ」ご愛読の皆様、いつもありがとうございます。

今年は、ようやく大久保駐屯地記念行事を一般開放で開催し、皆様とお会いできて、とても嬉しく感じました。

ウィズコロナでも油断せずに各種訓練に励んでいきます。

最後になりますが、令和４年度も引き続き、大久保駐屯地広報紙「やましろ」に対し、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。